

私は2023年8月から約1年間、ケニアのジョモケニヤッタ農工大学に交換留学をしました。結論からいうと、留学をして本当に良かったなと感じます。いくつか理由はありますが、今回は学習面と生活面の2つの側面から説明したいと思います。

1 学習面

院生として留学したので院生のクラスに入り、勉強をしましたが、日本の大学生と比べて何十倍も全員が勉強をしているのが印象的でした。私は学部生のころ部活しかしていなかったのが、余計にそう感じました。ケニアの学生の知識量や農学に対する姿勢は素晴らしく、爪の垢を煎じて飲む必要があると本気で思いました。課題量も授業量も多く、最初の学期はかなり苦戦しました。クラスメイトが私のできなさを、からかいつつも、面倒をみてくれたおかげでなんとか単位を取ることができました。クラスの人数は多い時で私を含め5人と日本に比べると少なく、また全員が学生だけではなく会社員や、母親であるなど二足の草鞋を履いているのが特徴的でした。また先生方も日本留学経験者が多く、日本人である私のことを常に気にかけてくれる先生が多くいました。ケニアでは院生であってもかなり重めのテストがあり、研究は2年生から始め、学費の中に研究費は含まれておらず、自分でスポンサーを探して研究を進める方式でした。そのような特徴から一人で孤立する人はおらず、全員がクラスメイトとのチームプレーで課題や研究をこなしていたのが日本と違うとこだと感じました。

そのほかに日本と大きく違うと感じたのは、テストの方式です。日本はマークシートや記号選択の設問が必ず設けられていますが、ケニアのテストは全問記述でした。また解答記入量が多ければ多いほど評価されるため、設問に直接関係なくとも、とにかく枠を埋めることが重要視されていました。今まであまり記述の方式に慣れていないこともあり、テストはかなり苦戦をしました。また過去問等がなく、範囲も広がったのでクラスメイトに助けてもらいながらテスト準備を進めていました。

2. 生活面

買い物は1週間に一回ほど近所の大きなスーパーに行くか、学校の周りにある個人の露店で野菜等を買っていました。たまに近所の食堂でご飯を食べることもありました。自炊の方が安いので基本的に毎日自炊をしていました。洗濯は手洗いで最初は戸惑いでしたが、日常になってしまえば特に大したことないと思えるまでになりました。そ

のような環境で過ごし日本に帰国後、色んなものの便利さに逆カルチャーショックを覚えました。

また留学のメリットはたくさんあると思いますが、私は一番のメリットを現地の生活や人の考え方に触れることができることだと思います。渡航前は味も作り方も魅力も知る余地のなかったケニアの主食「ウガリ」。一年もすると味はもちろん、作り方さえマスターすることができました。夕飯を考える際にウガリが選択肢にある自分に成長を感じました。そのように洗脳してくれたケニア人のルームメイトに感謝したいです。またケニア人の友達がよく「Tomorrow is another day」と言っていたのも印象的でした。私はよく起こるかどうかもわからない将来の心配事や、不安で思い悩むくせがあるのですが、そのことを友達に相談するとみんな口を揃えて、それを考えて時間を使うより今あることをやった方がいいと言い、私の考え方も以前に比べ前向きになりました。

留学後半になるとケニアでは現大統領であるルト大統領の増税案に対する反発のデモが頻発するようになりました。デモを引っ張っているのがZ世代、つまり私たちと同年の世代でした。いくつかのSNSやクラスメイトの話から暴力を加えていたのはいつも政府側で、デモ側は平和なデモを目指しているようでした。嫌なことは嫌と表明する、政策を自分ごととして考え、若者が行動することに対して私はとても感銘を受けました。しかし、政府側のスナイパー等によって命を落とした若者が多くいることも事実です。私が留学していたジョモケニヤッタ農工大学の学生も、デモに出かけた後、行方が分からなくなり、後日ナイロビのゴミ捨て場にて遺体で発見されました。学校の Main gate では学生達がろうそくを灯し、追悼をしていました。様々なことを考えさせられる出来事でした。

この1年は多くのことを経験し、考え成長できた1年だと振り返ります。ケニアと聞くと日本からの距離の遠さや文化の違いから、留学を躊躇してしまうこともあると思いますが、国際協力に興味がある方は、必ず何かを学べると思うので飛び込んでみることを強くおすすめしたいです。

